



中村俊定文庫
文庫 18
28



酒。表のころ。こころの海。かみのの海。
まゝのわらた。まゝのわらた。まゝのわらた。

花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。

花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。

花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。

花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。

花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。

花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。

花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。

花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。

花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。

花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。

花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。花乃乃よふらた。

月の入る方折さる山まゝにたるひへくしや

全原 友のむれを^ま最^もあ^らむ白書^の月の今^もあ^らむらん

一長^あぬよ^の目^の形^のこ^の中^の夜^のあ^らむらん

一城^のあ^らむらん^の柳^のあ^らむらん

一夷^のあ^らむらん^の考^のあ^らむらん

一長^あぬの^のあ^らむらん^の柳^のあ^らむらん

一城^のあ^らむらん^の柳^のあ^らむらん

一夷^のあ^らむらん^の考^のあ^らむらん

一長^あぬの^のあ^らむらん^の柳^のあ^らむらん

一城^のあ^らむらん^の柳^のあ^らむらん

一夷^のあ^らむらん^の考^のあ^らむらん

一長^あぬの^のあ^らむらん^の柳^のあ^らむらん

一城^のあ^らむらん^の柳^のあ^らむらん

一夷^のあ^らむらん^の考^のあ^らむらん

一長^あぬの^のあ^らむらん^の柳^のあ^らむらん

一城^のあ^らむらん^の柳^のあ^らむらん

一夷^のあ^らむらん^の考^のあ^らむらん

一長^あぬの^のあ^らむらん^の柳^のあ^らむらん

一城^のあ^らむらん^の柳^のあ^らむらん

新 新のまは清秋の掃きかき今死すまは

新 妻をえなまはたり白木の夜習とて美の心

いなるまは乃ちあそえ又新に付あそは位のを

ふ親の死に張夜とくころんじ母の心

とてころんじあおあはありころんじ

一卯花よる。時。月。山室の垣ね。玉川

新 時よるに書る書とてあそは垣ねとてあそは

日 おれのじろく笑る垣ねとてあそはの月乃

月の秋書乃新しおむの情とてぬ玉川の

一郭云よ。あそは垣ね。卯の花。播。村。飯

○第の居。月。松村。院乃流ら。片雲の毒

新 卯の垣ねとてあそは月乃柱乃新しあそ

日 郭云花播乃書とてあそはあその人やあそ

日 いよせんあそはあそはあそはあそはあそは

日 芳心あそはの居凡とのあそはあそはあそは

日 悦よあそはあそはあそはあそはあそはあそは

拾遺

今集

新記

松法の雲のれをほひよとまらぬ年と云ひ
 風吹く海邊葉をむとえく涼しくぬぬ日午の
 雲をたぐりて村州吹風は秋もたぐく夏のよれ
 日 雲乳も涼しあきらまぬひに秋も高き月
 日 雲のけり涼しくとまらぬ日と夕雲のぬる
 初花 風吹く海邊涼しくとまらぬ日と夕雲のぬる

七月

至楽夜。柳夜。日らり。七夕。初の花

林乃初風。沙暑。萩。檜。女郎花
 萩。出。為。鴨。麻

八月

一葉也。方あじ。心ゆら。存打
 八月九月正長秋。子殺可殺無心
 宿。冷。秋。野
 聖山夕文付。巻八月の末

九月

○さうは川。ふまらふまらふ

○響也川原の波心もさすもさすもさすもさすも

○ゆめくさゆめくの浦はゆめゆめゆめゆめゆめ

○林葉とささゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

○ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

○おちゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

○又秀乃とれらるるは。林の風吹。月の光

○飛石乃教あつて

○月よる。虫鳴。露。存。徳。菊梅月

○下橋をくぬ。林乃町ぬのた。村ぬのた

○萩。暑のうぬぬ。紅葉乃々々々。秀

○るる。林乃流しふ

○風吹むらり萩の下秀まらるるあつて月の

○海とるはゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

○白雲よ羽打るる飛石の教あつて林のぬの

月と秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

拾遺 秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

秋のつらさの村邊のたれむきのまはりて

杉古 想

村邊や存の杉風よまねくん後さくやふとさる月

杖風よ初存のぬきさのさる後さくやふとさる月

藤よの田の野の山とく小倉とく山とく野とくの野とくの野とく

野とくの野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

小倉の野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

小倉の野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

小倉の野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

小倉の野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

小倉の野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

小倉の野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

小倉の野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

小倉の野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

小倉の野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

小倉の野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

小倉の野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

小倉の野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

小倉の野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

小倉の野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

杉古

村邊や存の杉風よまねくん後さくやふとさる月

杖風よ初存のぬきさのさる後さくやふとさる月

藤よの田の野の山とく小倉とく山とく野とくの野とく

野とくの野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

小倉の野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

小倉の野とくの野とくの野とくの野とくの野とく

乃翁とてわたりてあすわきまひちりまじ
 まよきしうまの酒のよきをとりよ念仏を
 のよきをとりあてん乃きまひひのよきを
 くよきしうまの酒のよきをとりよ念仏を
 乃翁とてわたりてあすわきまひちりまじ
 まよきしうまの酒のよきをとりよ念仏を
 のよきをとりあてん乃きまひひのよきを
 くよきしうまの酒のよきをとりよ念仏を
 乃翁とてわたりてあすわきまひちりまじ
 まよきしうまの酒のよきをとりよ念仏を
 のよきをとりあてん乃きまひひのよきを
 くよきしうまの酒のよきをとりよ念仏を

一酒のよきをとりあてん乃きまひひのよきを
 乃翁とてわたりてあすわきまひちりまじ
 まよきしうまの酒のよきをとりよ念仏を
 のよきをとりあてん乃きまひひのよきを
 くよきしうまの酒のよきをとりよ念仏を
 乃翁とてわたりてあすわきまひちりまじ
 まよきしうまの酒のよきをとりよ念仏を
 のよきをとりあてん乃きまひひのよきを
 くよきしうまの酒のよきをとりよ念仏を
 乃翁とてわたりてあすわきまひちりまじ
 まよきしうまの酒のよきをとりよ念仏を
 のよきをとりあてん乃きまひひのよきを
 くよきしうまの酒のよきをとりよ念仏を

○菊よる。秋乃の露。若の水。秋。月
○露。山路。霧。酒。仙人。群

秋を約色の菊風年の月を海を交山

心あはれはもあはれ初秋のまよる白葉

秋を約色はもあはれ初秋のまよる白葉

秋を約色はもあはれ初秋のまよる白葉

仙人の如く神白菊の香をよもよみ代はぬ

源氏物語の如くはなれはたふさうらうら

いふれはひよひはなれはたふさうらうら

いふれはひよひはなれはたふさうらうら

十月

○木乃葉らり。木枯。竹。秋。秋。秋

○若のうら。枯。水。水。水

十一月

○秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋。秋

十二月

冬

冬

○冬乃雪。○年乃雪。○去迎。○去乃

○秋乃菊。○年乃菊。○年乃菊。○秋乃菊。○山嵐。○嵐。○河内。○秋乃菊

○冬乃雪。○去迎。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪

○冬乃雪。○去迎。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪

○冬乃雪。○去迎。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪

○冬乃雪。○去迎。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪

○冬乃雪。○去迎。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪

○冬乃雪。○去迎。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪

○冬乃雪。○去迎。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪

○冬乃雪。○去迎。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪

○冬乃雪。○去迎。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪

○冬乃雪。○去迎。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪。○去乃雪

一河内よおの葉の月のひらく。雲の神のく
 ちひあきく。風をひく。後の心もいひ
 一葉とらる。をいひ書

日 枝のやよ河内のまらりる。木の葉もいそいで
 中野の山に紅葉をたけ葉の里にあり河内つ
 月と約も折るをいひふらり心を初河内つ
 又後なくゆとれや。けいへくひ
 一葉とらる。河内の心もいひ。一葉の心を

ころありら。葉の葉。山の峰もいひ
 一葉とらる。後の心もいひ。おとらる。一葉とらる
 一葉とらる。一葉とらる。一葉とらる。一葉とらる

拾遺 山皇の言海つる心をいひ。心をいひ。心をいひ
 足らりの心海つる心をいひ。心をいひ。心をいひ
 千秋 少る書よ初めの心もいひ。心をいひ。心をいひ
 後拾遺 白妙ふら。心をいひ。心をいひ。心をいひ。心をいひ

又梅乃卯花なとせも付个々又えさ
てなら交乃相の月林れ月とては
そ月とそり付くは殆どそりは夜林の
二乃さよとそんくはくくは是一の
一級句ん梅先二句乃内くくは
ては梅さくは又旬梅はとせも
なむのへくははくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはく

よのさむはくはくはくはくはくはく
と今いほまはくはくはくはくはく
なるへくはくはくはくはくはくはく
又梅乃梅はくはくはくはくはく
る梅の梅はくはくはくはくはくはく
とくはくはくはくはくはくはくはく
とくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはく

是さくはくはくはくはくはくはく
紙巴

九月十三日 乃 汝のこころの月をみる
をよも橋のあはれはむさかむさか
まのつかりあはれもみまのつかり
まのつかりあはれもみまのつかり
是もあはれもみまのつかりあはれも
うらやまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの

あはれもみまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの
あはれもみまのつかりあはれもみまの

あはれ

あはれ

一 ちりりく

一 魚云

一 花少り

一 おわり月 但月報なり

一 月乃秋

一 釣か ありけり

一 葉少く 從ふまゝに

一 ねね

一 うらけり

一 と海つら

一 ねね

一 人里

一 去のい

一 うら

一 小雨

一 枝面

一 あり

一 河の

一 急心 せうせうと

一 初冬

一 種の日 ありけり

一 月乃新

一 一か

一 打かひ

一 打か

一 聖も

一 打機 ありけり

一 燈も

一 一か

一 隠題より

花さうり知をあくぬを海しく
去乃本うけらあくさうり好
たぐ福まればうらたれさうり
くたさうりし運なれもゆるらん

おひらき

船久乃釣さうり海乃をさうり
者のいとならぬかさうり

おらむせ

わさうり乃むのさうり海
林名海を祝そ方あおと海く

付合

一乃よら。素林の文とあを松透新古
今やと曲をあり源成りも中交紫の
上乃編よ海と

海あく。田さうり。田さうり
ふららと。舞。酒。系竹

四六

三十一

斑女園中秋解色

一 鴉場よの。梅。紅葉。梅より紅葉より

一 あり。梅の。と。と。と。と。

田上の網代をたの池をたのたをたのたを

一 楸。一。一。一。一。

梅よりあまの葉の葉原の葉の葉の葉の葉

一 せりぬ。夜よ。あまの池。あまの池の葉の葉

一 梅見。あまの池の葉の葉の葉の葉の葉

一 萩。一。一。一。一。

一 田よ。竹。柳。葉。苔。雲のへ。沢

一 里。村。梅。鴨。石

一 堤よ。柳。道。田

一 性。あまの池の葉の葉の葉の葉の葉

一 九。あまの池の葉の葉の葉の葉の葉

一 萩。あまの池の葉の葉の葉の葉の葉

一 萩。あまの池の葉の葉の葉の葉の葉

後見うしろみよる。先立さきだちとある。先立さきだち神
と云い乃のちち今いまののゆゆららとと結むすぶぶとと成なるるとと成なるる
思おもひひ。乱みだるるふふ。又また玉たま子こ。紙かみのの丸まる敷敷くく
衣えのの山やまよよ。園うゑんはは敷敷ののりり入い。昔むかしのの志こころ根ね
よよ流ながるるももささ。若わかきき夜よははああららままてて
はは火ひよよ。ああきき梅うめととううららいいるるよよ
隣となりへへ。園うゑんのの川がはををくくよよくくのの
みみるるよよ。後あと

おおりりよよ。蝶ちょうももはは花はなななくくむむししひひ
くく流ながるるももささ。馬うまももはは花はなななくくむむししひひ
玉たま乃のささひひ。柳やなぎ乃の落おちるる。すすきき落おちるるのの落おちるる
ああららままてて。又また玉たま子こ。紙かみのの丸まる敷敷くく
衣えのの山やまよよ。園うゑんはは敷敷ののりり入い。昔むかしのの志こころ根ね
よよ流ながるるももささ。若わかきき夜よははああららままてて
はは火ひよよ。ああきき梅うめととううららいいるるよよ
隣となりへへ。園うゑんのの川がはををくくよよくくのの
みみるるよよ。後あと

一わくむむよ

○仲津糸母のわ

一酔い

○糸母の

一わのさあよ

○例らぬ

一親よ

○佛くわんおんと二子の

其中 命を志す者子

一死よ

○まぬ 書は自為花

一おひよよ

○碁。鏡

一とらふ

○異竹。松

一松々あふよ

○おろくぬ

一う風

○まきまき。推の紫ゆ

文々白々風は吹きえ紫のうと

指させしうみ白い者紫を 兼哉

暴風は吹く白くみく神なり

面影よ。う。ま。ま。ぬ。ちの

富士乃山 海とらひえよ

学ひよ。時をたけおひこの

和歌
三十一

乃亦不^レ後^ニ。先^ニ其^レ母^ヲ又^レ海^ニ。每^レ終^ル。

○山^ノ海^ノ。富^ノ士^ノの海^ノと雲^ノの海^ノ。山^ノの海^ノ。

一石^ノ一^ノ箱^ノ。橋^ノ。

一乃^レ其^レく^レ小^ノ。橋^ノと^レ池^ノ。橋^ノの^レ池^ノ。

○ま^レれ^レ海^ノ。○あ^レれ^レ海^ノ。池^ノの^レく^レ。

○水^ノに^レり^レ。○海^ノ。

一海^ノの^レ海^ノ。○あ^レれ^レ海^ノの^レ池^ノ。

一柳^ノ乃^レ其^レの^レ海^ノ。○あ^レれ^レ海^ノの^レ池^ノ。

一乃^レ其^レの^レ海^ノ。○あ^レれ^レ海^ノの^レ池^ノ。○あ^レれ^レ海^ノの^レ池^ノ。

ひ。福^ノ。

一海^ノ乃^レ其^レの^レ海^ノ。○あ^レれ^レ海^ノの^レ池^ノ。○あ^レれ^レ海^ノの^レ池^ノ。

一と^レあ^レつ^レ海^ノの^レ海^ノ。○あ^レれ^レ海^ノの^レ池^ノ。

一酒^ノは^レ海^ノの^レ海^ノ。○あ^レれ^レ海^ノの^レ池^ノ。

○海^ノの^レ海^ノ。○あ^レれ^レ海^ノの^レ池^ノ。

一乃^レ其^レの^レ海^ノ。○あ^レれ^レ海^ノの^レ池^ノ。○あ^レれ^レ海^ノの^レ池^ノ。

一乃^レ其^レの^レ海^ノ。○あ^レれ^レ海^ノの^レ池^ノ。

乃山。琴トキウ。二十又久遠。後ヤタラシ。月ツキ。心ココロ。

一あふ。空カラ。り。な。紀キ。よ。○。君キミ。ふ。代ヨ。乃ノ。惠ケ。こ。さ。ま。の。心ココロ。

○。京キョウ。竹タケ。の。志シ。く。へ。の。志シ。と。為ナリ。

一とまり。隣トナリ。よ。○。善ヨシ。法ホウ。り。く。こ。○。年トシ。乃ノ。末マタ。

一。雲クモ。母ハハ。○。指ササ。書カキ。あ。る。乃ノ。花ハナ。も。物モノ。○。花ハナ。○。枝エダ。

一。流ナガレ。ち。く。ま。な。り。な。る。船フネ。又また。○。海ウミ。つ。き。さ。ら。く。志シ。

○。お。ふ。江エ。○。津ツ。

一。と。く。乃ノ。是コト。よ。○。地チ。事ジ。の。志シ。と。凡ソト。○。花ハナ。乃ノ。法ホウ。

一。わ。く。う。積ツク。り。つ。と。う。れ。あ。り。よ。○。あ。ま。の。い。わ。

一。う。な。ま。ま。母ハハ。○。何ナニ。も。乃ノ。御ミコト。り。る。○。樹ツキ。の。家イヘ。

乃ノ。あ。よ。は。あ。う。死シ。さ。ら。ふ。死シ。あ。く。

一。な。げ。の。情ナガシ。よ。○。故コト。乃ノ。親オヤ。

一。な。ま。な。山ヤマ。母ハハ。○。友トモ。姑ハハ。子コ。死シ。く。

一。ひ。ら。ひ。ら。ふ。○。鉤カギ。乃ノ。花ハナ。○。研ヒキ。○。海ウミ。さ。ぬ。

一。花ハナ。と。ら。り。海ウミ。さ。ぬ。○。森モリ。の。下シタ。葉ハ。

一。そ。く。ひ。な。ま。ん。○。一ヒト。本ポン。乃ノ。さ。ら。く。

三

三

一 山ろくろふ 山 ろくろ ふ

一 おさくら お さ く ら

一 川 川

一 おさくら お さ く ら の 色 は 〇 布 さ く は な ね

一 川 川 の 色 は 〇 布 さ く は な ね

一 おさくら お さ く ら の 色 は 〇 布 さ く は な ね

一 川 川 の 色 は 〇 布 さ く は な ね

一 川 川 の 色 は 〇 布 さ く は な ね

一 おさくら お さ く ら の 色 は 〇 布 さ く は な ね

一 川 川 の 色 は 〇 布 さ く は な ね

一 おさくら お さ く ら の 色 は 〇 布 さ く は な ね

一 川 川 の 色 は 〇 布 さ く は な ね

一 おさくら お さ く ら の 色 は 〇 布 さ く は な ね

一 川 川 の 色 は 〇 布 さ く は な ね

一 おさくら お さ く ら の 色 は 〇 布 さ く は な ね

一 川 川 の 色 は 〇 布 さ く は な ね

一人論るは乃さひひまひら。あまのこゝろ
 神の病。物事なれども。四時の中
 板あれまよる。飛雲よ橋をたひむ
 物のはまよるひらさやう

雲飛りたるのこゝろ神く
 物あつたる故あまのこゝろ
 けしきあよる。光のあまをせむ
 と付ト。物と山と。あまをめぬ

一表乃秋の光もなれよ。あまの月
 一とむ物と。物くふさくうひを
 一弘とさるあけくよる。年のとらり
 光の神。光乃光。光の病。老の光
 一光とさるの中

一白の光乃らるよ。物事の光も
 ぬ。光とさるあまのこゝろ。あまの
 物事なるもの。あまのこゝろ。あまの

新さ海くそらさ入山

川墨よるるくあく。松乃一じく。と海

紫乃乃澄来。おねとらるる乃のさう

○おねとらるるく吹く吹風

一横雲よ。川乃吹くしんらるる。羨めい

る物。そらさく。雪の勢。月とそらさ

一糸よとそらさく。今六。小車れあさこ

なる袖。曇日。雲の成林。雲々の

川を。釣いさつ。くもくもま酒いん

一柳くくとある。古ある門。他乃知ら

○花らるる乃喜葉。さうの院。川乃

めくつと。川そひのり

一本の乃れ霧乃をなはらぬ。山と霧

○霧乃乃月よ。おねの影。村ぬらる

一つと霧の雲乃まよふ。川ぬあさこ

そら風。紫人らる。結乃乃あぬ。い

きく山哉。釣舟をるる

一 燈臺をくまの岸より。くまの海のおもきなる

○クマをくまの岸より。くまの海のおもきなる

一 お釣をかくるよら。入燈をまきみる

○お釣をかくるよら。入燈をまきみる

一 お釣をかくるよら。入燈をまきみる

一 死くともおもしろくよら。山麓。その

め。林麓の松。雪もく。はく松。松

○松中の松。山麓の松。松。松

一 山乃麓の松のよら。松乃松くまの

○松乃麓の松のよら。松乃松くまの

○松乃麓の松のよら。松乃松くまの

一 松乃麓の松のよら。松乃松くまの

○松乃麓の松のよら。松乃松くまの

一 松乃麓の松のよら。松乃松くまの

○松乃麓の松のよら。松乃松くまの

の志がたけまのしるし。花がら山陰

夏入りも志をぬき乃下りまらる。去乃

村あり。夏の下ゆく。秋もどやまらる

。秋も乃下り。秋もどやまらる。秋もどやまらる

。秋生の節も。こころ

も。秋の節のしるし。あかひもく

こころ。秋は吹風

一風も。秋も。あかひもく。あかひもく

浦波。秋も。秋の節のしるし。あかひもく

一夕も。秋も。あかひもく。あかひもく

秋。秋も。あかひもく。あかひもく

一秋も。秋の節のしるし。あかひもく

乃松。秋も。あかひもく。あかひもく

一川も。秋も。あかひもく。あかひもく

く。秋も。あかひもく。あかひもく

一秋も。秋も。あかひもく。あかひもく

夕風を約ま。さくれやろ

八月はとくれは光をまき
月さあうまきそのひり

まゆりと
まゆり

うりまぬ乃や。さくれやろ

い流まぬのま。さくれやろ

さくれやろ

一小ま。さくれやろ

一奥のま。さくれやろ

○ま。さくれやろ

地味志げふい。おれま

一月も今ま。さくれやろ

わろ。山ま。さくれやろ

一あま。さくれやろ

さくれやろ

一田ま。さくれやろ

柳ま。さくれやろ

ちま。さくれやろ

一 氣乃雲のまよふ。暖氣乃約母乃
○ 東風吹ふむじ。くるくくまの月
まくたつ。葉人くるる

一 夕乃浦波の發まき。舟よる河
○ さくらをよも。あかまの神。むら

りぬふ。わら風。け乃松
一 舟の帆打ぬる程もなれよる。を

焼る。まふれられ。樹をよも

○ 學ひ跡をみ

一 極あむ乃咲よ。いあふ乃人の心とま
子。陰の喜柳。まぬそくた。神志
くさ座。あふむ。初乃あさこひ

一 少いも形の谷をいへる
○ かしらなる程もや梅。酒母。山風よ

一 舟乃そく神
○ まよむもやれ見ろよ。養よら

かきあつぬ^木。ほ^木乃あ^木のう^木ひ^木あ^木
ち^木く。か^木さ^木い^木。林の草^木松^木な^木し
あ^木もあ^木ら^木あ^木か^木さ^木ん^木ら

一^木心^木を^木林^木も^木あ^木ら^木は^木。物^木の^木き^木さ^木も^木こ^木
れ^木ら^木あ^木乃^木ほ^木る。ひ^木ろ^木さ^木末^木 子強のま

一^木葉^木玉^木の^木ま^木れ^木末^木は^木。あ^木ら^木も^木文^木付^木ひ^木え^木
た。さ^木ひ^木ゆ^木ん^木多^木松^木約^木。吹^木く ゆき

葉^木の^木ま^木れ^木末^木は^木。あ^木ら^木も^木文^木付^木ひ^木え^木
た。さ^木ひ^木ゆ^木ん^木多^木松^木約^木。吹^木く ゆき

一^木わ^木と^木も^木さ^木ひ^木あ^木ん^木死^木は^木。結^木つ^木と^木さ^木く^木る^木死^木
妻^木乃^木日^木。う^木ひ^木ら^木あ^木梅^木。跡^木生^木る^木若^木幼^木を^木
は^木分^木作^木る^木さ^木ん^木ら

一^木又^木月^木あ^木よ^木い^木。思^木い^木さ^木は^木。ひ^木ろ^木さ^木い^木つ^木
い^木ら^木い^木ら^木い^木ら^木。か^木さ^木ら^木よ^木よ^木ん^木あ^木あ^木

一^木さ^木の^木梅^木は^木。あ^木の^木あ^木ら^木若^木。た^木ら^木結^木。山^木あ^木
一^木さ^木乃^木月^木の^木ひ^木ら^木よ^木ら。う^木ほ^木ら^木一^木葉^木

の^木あ^木ら^木 是はさうはらまをん神さるゝの
文おうしよまをん神さるゝの

まぬ。雪のひ向え

一 松浦の白死波。紫人

の侍神松浦。舟よまふ。後の宮り

一 松浦舟よまふ。城江のまを。舟く

川か。金舟まを。舟くまを

まをま。城江の松浦舟揚る。舟く

舟く松浦の舟江の舟く。舟く

舟もまの舟く。舟く

一 松浦の舟く。舟く。舟く。舟く

○ 舟く。舟く。舟く。舟く

舟く。舟く。舟く。舟く

舟く。舟く。舟く。舟く

一 舟く。舟く。舟く。舟く

舟く。舟く。舟く。舟く

一 舟く。舟く。舟く。舟く

の舟く。舟く。舟く。舟く

是皆移入とうとうとうのあめ
とらるる槐ころころのあめ

一々白の流のあめよる。流の白例。あ乃
喜柳。あ乃あめこひかあめいん

一西田の向井里をこき林こいあおお流まて
あつうのうこい村乃竹。あ乃白く

一あ乃あめよる。松の林乃月。月と書
よああめりころ流なり。夜の月乃

あ。く山。松のあめあふあよ

一青い道のまのま都理れ月あつうまの山
村いよまの梅よ。まあまのあめ。梅さく

一け。冬木よまの松。松乃細く入
る山あつうまの梅りころん

一梅もまのあめよる。あ乃梅り
梅乃梅り。梅あめさる梅さるも梅り

一あつうのあめよる。梅り梅り。あ乃
りとなさ。あめくのあめい

一 燈をけくると云ふよき。河東の流をえ
もきく。ありと母を死す。

一 古くはよき。落書。何と云ふを
一 落書のころよき。何と云ふの羽目をきく

一 橋乃をえく。志業乃にすり
一月とくく神よき。物直木。さひ

一 何と云ふよき。智恵のよき。竹乃をえ
よき。乃のよき。海のありあり例

一 乃松。芳味。夕鶴。梅のよき
一 雲のよき。乃のよき。流月

一 乃松。芳味。夕鶴。梅のよき
一 雲のよき。乃のよき。流月

一 乃松。芳味。夕鶴。梅のよき
一 雲のよき。乃のよき。流月

一 乃松。芳味。夕鶴。梅のよき
一 雲のよき。乃のよき。流月

さきくへ。清は入るて心

一 嘆るをあらぬ物かよは。夕露のさ

のる。くらけ竹乃中のうき

一 秋よるる。月よは。せむし物く結。福也

乃たさぬ。栲まらうり。くらくむ

一 竹花よる。垣かきの梅も。いらの乃

栲いかにやうなはし。一はもよのむら

ま乃秋の干しれよる。蝶まらうのまらうは

とらじれ。もるれ。じまひあぬま

一 ともはぬ夕乃あよら。そのめえ結

のさり。わきあえ結あらをお

一 あさりよら。ひのささと結。ひま

その中乃結。橋。あの車

一 夕乃結よ。人を約也。さのけと物

むむく。楽が乃結がよらく

一 時をわらうよ。無人むらう。村むらのさのむ

一 鳩のしきとよふ。○^{ちやうど}むさしのしきとよふ。
 ち。○^{ちやうど}古畑。○くわしの角。○^かはのしきとよふ。
 のしきとよふありきたり

古畑のしきとよふ。○^かはのしきとよふ。
 一 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。
 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。

一 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。
 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。
 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。

一 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。
 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。
 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。

一 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。
 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。
 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。

一 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。
 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。
 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。

一 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。
 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。
 ちよたうくしきとよふ。○^かはのしきとよふ。

○武川乃里 是はの香 ○村 むら の
○波 なみ ○舟 ふね ○川 がは

○海 うみ ○波 なみ ○舟 ふね ○川 がは

○夕 ゆふ ○風 かぜ ○川 がは ○舟 ふね ○川 がは

○山 やま ○川 がは ○舟 ふね ○川 がは

○山 やま ○川 がは ○舟 ふね ○川 がは

○山 やま ○川 がは ○舟 ふね ○川 がは

○山 やま ○川 がは ○舟 ふね ○川 がは

○山 やま ○川 がは ○舟 ふね ○川 がは

○山 やま ○川 がは ○舟 ふね ○川 がは

○山 やま ○川 がは ○舟 ふね ○川 がは

○山 やま ○川 がは ○舟 ふね ○川 がは

○山 やま ○川 がは ○舟 ふね ○川 がは

○山 やま ○川 がは ○舟 ふね ○川 がは

○山 やま ○川 がは ○舟 ふね ○川 がは

○山 やま ○川 がは ○舟 ふね ○川 がは

いふ。山乃あらしのたゞしむの旅
なを討ゆる人くは

しむしむ彩とむむらよる。わこ人

一第。あまのむら

染漬。白糸乃あ流。むら木の枝

あつははらりとわのあま

あつははらりとわのあま

あつははらりとわのあま

あつははらりとわのあま

あつははらりとわのあま

あつははらりとわのあま

あつははらりとわのあま

あつははらりとわのあま

あつははらりとわのあま

あつははらりとわのあま

あつははらりとわのあま

海山

右一冊之松よき家の人と云ふ子よき家
為初心之學家と云ふ被作人乃海之
解法傳之云々内々も書付の云々
七由思流之入石波他云々の云々
と云ふ物有る事云々候如流以他見不
と云ふ之云々也云々候云々 云々意在判

寛永十四年丁丑六月吉辰 開之

三尾村

今井印



